

1. 科目名 (単位数)	教育健康学特論 (2 単位)	池袋・名古屋		
2. 授業担当教員	【池袋】 鈴木路子・山本静雄・八重樫節子・石垣久美子・ 神宮直人・面川幸子 【名古屋】 鈴木 路子・宋 暁鈞		3. 科目番号	EDMP5512 EDMP5372
4. 授業形態	講義、演習、実習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	<p>人間のかけがえのない「いのち」を多方面から支える科学としての健康学が「教育健康学」であり、これこそが学校教育を支える基盤である。すなわち、あらゆる教育現象、学校生活現象における個々の次元での出来事に対して「教育健康学」の専門性を生かした視点で種々の適切な対応策を展開する際に基盤となる知識・思想・技術などの養成は、教員養成系大学及び大学院として特に重点を置かなければならない教育の原点である。</p> <p>この講義では、人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応」の概念に関する知見を教育健康学の視点から考えるとともに、人間の発育、生活生存と各種環境問題（空気・水・光・音・植生・生態系）との相互作用を自然科学として把握するとともに、教育健康学の観点から「人間」と「環境」に着目した思想を再解釈し、自己実現能力と自己ケア能力の育成を目指すものである。更に、環境中の病原微生物やアレルギー（アレルギーを惹起する抗原）の侵入に対する人間の防御反応、特に免疫学的防御機構についての理解と応用能力を培うことも目的の一つである。</p> <p>他方、本授業においては、保健室の場が持つ機能をさらに見直し、救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能、その他を統合させた総合的アプローチの支援モデルを共に構築することも授業の目標点としている。</p> <p>急速な社会変化の中で、「人間」の尊厳や命の尊さが軽視されるおそれがある。このような「人間」の危機を乗り越えるために新たなパラダイム構築が求められている。本講義においては、教育と健康に着目した教育健康学を再解釈することにより、新たなパラダイム構築を目指す。</p> <p>本講義は、グローバル・グローバル双方の調査能力が求められていることから実際の調査研究を実践してきた複数の研究者らがオムニバス形式で担当し、臨床教育研究としての高度な「教育健康学特論」の構築を目指すものである。</p>			
8. 学習目標	<p>(1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解する。</p> <p>(2) 健康を維持するために不可欠な感染防御機能やアレルギー・アナフィラキシー発現などの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことを目指す。</p> <p>(3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育健康学について理解を深め、児童・生徒と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識の習得を目指す。</p> <p>(4) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができる。</p> <p>(5) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができることを目指す。</p> <p>(6) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できることを目指す。</p> <p>(7) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることを目指す。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>(リーディング・アサイメント) テーマごとに配付された資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。</p> <p>(ライティング・アサイメント) 本講義はオムニバス形式で開講するため、テーマごとに担当教員から、異なる形式のレポート課題の提出を求められる。</p>			
10. 教科書・参考書 ・教材	<p>【教科書】(鈴木) 鈴木 路子、真野 喜洋編著『教育健康学』ぎょうせい、2011 年。 他の担当者は、いずれも『教育健康学』と配付資料を用いる。</p> <p>【参考書】特になし</p>			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>(1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解することができたか。</p> <p>(2) 感染防御機能やアレルギーなどの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことができたか。</p> <p>(3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を習得することができたか。</p> <p>(4) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることができたか。</p> <p>(5) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができるようになったか。</p> <p>(6) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができるようになったか。</p> <p>(7) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できるようになったか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>(1) 対面授業を行った場合の成績評価は、①授業態度 (30%) ②課題レポート (40%) ③研究発表 (30%) の成果によって判定する。</p> <p>(2) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、出席を 40%、課題レポート 60%で判定する。</p> <p>(3) (1) と (2) の両方で授業を実施した場合には、実施した割合にもとずいて両方の評価基準を採用する。・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>(鈴木) 現代の子どもの健康課題を解決していく手がかりを、環境適応能力の立場から探求し、よりよい人間の生命生存について共に考える場に、意欲を持って取り組むことを期待したい。</p> <p>(山本) この講義は、皆さんが日常生活で直面する事象を理解する上で役立つ内容で構成されていますから</p>			

	<p>楽しく取り組まれることを希望する。</p> <p>(八重樫、石垣) 関連諸資料を検証的に学びつつ、借り物ではなく独自の健康相談学をまとめ、カウンセリング機能と生徒指導的機能について自分なりに統合したアプローチを考え、自分の支援モデルを作り上げてほしい。また、先行文献・資料を批判的に読み、関連学会に報告することを勧める。</p> <p>(宋)「教育学」の構築に向けて教育健康学的アプローチを取り入れた授業をしたい。積極的に授業に参加し、関連する文献を読み、発表・討議することを期待している。</p>
13. オフィスアワー	<p>鈴木路子：事前にアポイントをとってください E-mail:m-suzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p> <p>山本静雄：講義の開始前と終了後。</p> <p>八重樫、石垣：最初の講義の際に連絡する。</p> <p>宋：授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。</p>
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
① . テーマ	<p>教育健康学特論/健康相談学特論の目指すもの。</p> <p>(1) 健康教育の現代的課題</p>
	<p>【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。</p> <p>【学習の内容】温度適応能力の発達に及ぼす影響や人間がある地域環境で暮らすということの意味について、インドネシアでの研究成果をもとに考察を深める。</p> <p>【キーワード】生育環境、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト、アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間</p> <p>【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する「参考文献一覧」参照</p> <p>【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。</p>
② . テーマ	<p>進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。</p> <p>(2) 温度適応能力の発達</p>
	<p>【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。</p> <p>【学習の内容】健康教育の現代的課題として、都市化・人工化とアレルギー反応(アトピー性皮膚炎や喘息)の問題について、各種データをもとに考察を深める。</p> <p>【キーワード】生育環境、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト、アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間</p> <p>【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する「参考文献一覧」参照</p> <p>【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。</p>
③ . テーマ	<p>進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。</p> <p>(3) 環境の汚染と生体への影響</p>
	<p>【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。</p> <p>【学習の内容】大気汚染・水質汚濁・地球温暖化による影響と環境測定技法を習得する。</p> <p>【キーワード】生育環境、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト、アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間</p> <p>【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する「参考文献一覧」参照</p> <p>【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。</p>
④ . テーマ	<p>人間の生命の営み：人間の免疫機能(現象)の概要及び環境との関係</p>
	<p>【学習の目標】免疫現象には感染防御を担う有益な免疫現象とアレルギー・自己免疫疾患などを惹起させる有害な免疫現象があることを理解する。</p> <p>【学習の内容】免疫現象は、外部環境から侵入する非自己(抗原)を認識し、それを排除する現象であり、この現象が感染防御を担い、一方ではアレルギーを惹起させる。これらの機序を理解する。</p> <p>【キーワード】人間の生命の営み：自己、非自己の科学、抗原、アレルゲン、アレルギー</p> <p>【学習の課題】免疫現象の機序を把握する。</p> <p>【参考文献】配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】免疫現象は自己と非自己を識別して非自己を排除する現象であることを理解する。</p>
⑤ . テーマ	<p>人間の生命の営み：有益な免疫現象(感染防御機能など)、自己を守るための基本原理を理解する。</p>
	<p>【学習の目標】特異的免疫には、補体を活性化して病原(性)微生物を傷害(破壊)させたり、病原(性)微生物の感染を阻止する抗体の機能があることを理解する。</p> <p>【学習の内容】有益な免疫現象の例として、ウイルスの感染防止及び補体を活性化させて細菌を傷害する機序を解説する。</p> <p>【キーワード】補体、膜傷害複合体(MAC)、中和抗体</p> <p>【学習の課題】有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス(HIV:エイズの原因ウイルス)などに対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。</p> <p>【参考文献】配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】抗体は単独で細菌やウイルスなどを傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。</p>
⑥ . テーマ	<p>人間の生命の営み：有害な免疫現象(アレルギー、自己免疫疾患)</p>
	<p>【学習の目標】特異的免疫にアレルギーなどの生体にとって有害な免疫反応を惹起させる現象があることについて理解を得る。</p> <p>【学習の内容】有害な免疫現象の例として、アレルギーとその発現機序について解説する。さらに、身近に存在するアレルゲン(アレルギーの原因物質)について説明を行う。</p> <p>【キーワード】アレルギー、アレルゲン、IgE抗体、肥満細胞、ケミカルメディエーター</p> <p>【学習の課題】アレルギーの発現においては、アレルゲンに対して産生されたIgE抗体、肥満細胞及びアレルゲンの3者によってケミカルメディエーターを放出させることを把握する。</p>

	<p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 有害な免疫現象の結果として発現するアレルギーや自己免疫疾患は異なる機序に基づくことを理解する。</p>
⑦．テ ー マ	<p>人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学 (1) 教育健康学についての理解</p>
	<p>【学習の目標】 教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。</p> <p>【学習の内容】 各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。</p> <p>【キーワード】 臨床教育、ホリスティック教育、人間形成、対人援助、精神性、ケア</p> <p>【学習の課題】 ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配付する「参考文献一覧」参照</p> <p>【学習する上での留意点】 事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。</p>
⑧．テ ー マ	<p>人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学 (2) 人間と健康との関係の分析法</p>
	<p>【学習の目標】 教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。</p> <p>【学習の内容】 各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。</p> <p>【キーワード】 臨床教育、ホリスティック教育、人間形成、対人援助、精神性、ケア</p> <p>【学習の課題】 ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配付する「参考文献一覧」参照</p> <p>【学習する上での留意点】 事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。</p>
⑨．テ ー マ	<p>養護教諭と健康相談</p>
	<p>【学習の目標】 「健康相談について」法的根拠について討議する。</p> <p>【学習の内容】 「養護教諭の行う健康相談」とは何かを討議する。</p> <p>【キーワード】 ヘルスカウンセリング、保健室、心の健康</p> <p>【学習の課題】 「健康相談の今」の課題について討議する。</p> <p>【参考文献】 『養護教諭の行う健康相談』大谷尚子・森田光子他 東山書房 (各自テキスト)</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの健康課題の背景をおさえていく。</p>
⑩．テ ー マ	<p>健康相談のプロセスとしてのカウンセリング</p>
	<p>【学習の目標】 「聞く技術の意義について」プロセスとしてのヘルスカウンセリング (健康相談)。</p> <p>【学習の内容】 短時間・随時の支援から構成されるカウンセリングプロセスの理解。</p> <p>【キーワード】 受容、共感、自己一致、傾聴、カウンセリング技法、来談者中心療法</p> <p>【学習の課題】 行動変容 (時期)、プロセスの理解。(次週予告; Case 事前に配布)</p> <p>【参考文献】 マークヘンダーソン、ローレンスティヤニー、ジェラルドスメタナ編/山内豊明監訳『聞く技術』第2版、日経 PP、2013</p> <p>【学習する上での留意点】 演習を通し実体験をしていく。</p>
⑪．テ ー マ	<p>健康相談における見立てについて (事例研究)</p>
	<p>【学習の目標】 何故、見立てを行うのか。</p> <p>【学習の内容】 子どもが抱えている問題や背景の判断根拠を見極める。</p> <p>【キーワード】 アセスメント、不定愁訴、頻回来室</p> <p>【学習の課題】 健康相談におけるEBMについて学ぶ。(次週資料配付)</p> <p>【参考文献】 大谷尚子 森田光子『養護教諭の行う健康相談』東山書房、2012</p> <p>【学習する上での留意点】 事例から子どもの支援手立てを探っていく。</p>
⑫．テ ー マ	<p>養護診断学と健康相談</p>
	<p>【学習の目標】 健康相談のヘルスアセスメントと養護診断の関係。</p> <p>【学習の内容】 ヘルスアセスメントの実際。</p> <p>【キーワード】 不定愁訴、頻回来室</p> <p>【学習の課題】 養護診断の立て方 (次週資料配付)</p> <p>【参考文献】 高石昌弘・鈴木美智子編『保健室における養護教諭の対応』開隆堂、2003</p> <p>【学習する上での留意点】 事例から養護診断の立て方を読み取っていく。</p>
⑬．テ ー マ	<p>心身健康科学の活用 子どもの課題と発育発達からみた精神的問題</p>
	<p>【学習の目標】 心身医学と環境要因。</p> <p>【学習の内容】 心理社会的環境の変化。</p> <p>【キーワード】 不定愁訴、睡眠障害、自己肯定感、自尊感情、いじめ、不登校</p> <p>【学習の課題】 呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経・筋肉系、その他</p> <p>【参考文献】 久保千春編『心身医学標準テキスト』第3版、医学書院、2009 (次週資料配付) 心身相関の基礎。(他の文献検索中)</p> <p>【学習する上での留意点】 環境が及ぼす身体への影響を追求していく。</p>
⑭．テ ー マ	<p>保健室の役割 (かかわり) と生徒指導の役割 (かかわり) を検討する</p>
	<p>【学習の目標】 解決的・予防的・開発的な発達援助の特徴を考える。</p> <p>【学習の内容】 生徒指導のかかわりと健康相談のかかわりの特徴を調べる。</p> <p>【キーワード】 集団指導、個別指導、教育相談</p> <p>【学習の課題】 それぞれが持つメリット、デメリットについて検討する。</p> <p>【参考文献】 八並光俊・国分康孝編『新生徒指導ガイド』</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれの役割を生かした連携について探っていく。</p>
⑮．テ ー マ	<p>まとめと振り返り</p>
	<p>【学習の目標】 本講義・演習のまとめと振り返りを行う。</p>

【学習の内容】前半で本講義・演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。

【キーワード】企画力、論理構成・展開力、コミュニケーション力

【学習の課題】本講義・演習の成果を報告すること。

【参考文献】授業内で配付する「参考文献一覧」参照

【学習する上での留意点】資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。